

岡山県の取組について

～地域防災力の充実強化に向けて～

令和2（2020）年3月21日

岡山県 危機管理課

平成30年7月豪雨災害検証報告書(概要)①

◆趣旨

平成30年7月豪雨災害における、**災害対策本部の初動対応をはじめとする岡山県のこれまでの対策を検証し、被災世帯を対象とした本格的な住民意識調査を通じて把握した避難の実態等も踏まえながら、将来発生しうる風水害や土砂災害、南海トラフ沿いの地震・津波等の大規模災害に備え、二度と同じことが繰り返されないよう、住民の避難対策や県の防災体制の強化などについて検討し、今後実施すべき取組を提言として取りまとめたもの**



検証委員会河田委員長による報告書提出

◆今後の対応に向けた提言

1 県災害対策本部の機能充実

2 市町村との連携強化

3 河川管理等の取組強化

4 自助・共助の取組促進

平成30年7月豪雨災害検証報告書(概要)②

提言4 自助・共助の取組促進

課題

- ・避難行動要支援者ごとの個別計画の策定が進んでおらず、高齢者が多く被災した。
- ・ハザードマップを見たことがあっても、内容まで理解している住民は少ない。
- ・大雨特別警報を聞いても5割強の方は災害発生の危険性を感じていなかった。
- ・地域の災害リスクの認識や地域における避難のサポート体制が不足していた。



提言

- (1) **統一した作成基準によるハザードマップの策定と活用**
 - ・ 広域避難等も踏まえて、県で統一した基準による策定等の検討が必要
- (2) **住民の避難行動につなげるための地域の災害リスク等の普及啓発**
 - ・ 地域の災害リスクへの理解促進が進むようハザードマップの活用が必要
- (3) **高齢者や障害のある方など要支援者の避難を支援するための共助の取組**
 - ・ 住民にまず一步避難行動を起こしてもらうため、様々な工夫が必要
- (4) **豪雨災害の教訓を生かした南海トラフ地震等への備え**
 - ・ 住民が避難に対する意識を変え、自主防災活動に参加するよう、行政と地域が一体となった取組が必要

提言を踏まえた県の取組

【対策1】 県の初動体制と 市町村支援の強化

- ・ 部局間連携強化に向けた、総合統制グループの設置
- ・ 県民局から市町村へ派遣するリエゾン（情報連絡員）を通じた情報収集の強化
- ・ 市町村と連携した実践的な防災訓練の実施 など

【対策2】 河川管理等の 取組強化

- ・ 重要水防箇所やため池の総点検
- ・ 河川の巡視体制の強化
- ・ 水系ごとの構成機関と連携した取組の推進
- ・ 河川維持管理の取組強化 など

【対策3】 地域防災力の強化

- ・ 防災のまちづくりや自主防災活動の充実・強化
- ・ 地域防災リーダー育成研修の充実
- ・ **地区防災計画等の作成に向けた市町村の取組支援**
- ・ 平成30年7月豪雨災害記録誌の作成 など

岡山県地区防災計画等作成推進協議会 設置に至る県のスタンス

平成30年7月豪雨で、**高齢者など要支援者の多くが亡くなった**



大規模災害では、**共助の取組が不可欠であり、地区防災計画や避難支援個別計画の策定が必要**



本県はこれらの計画の策定が低調であり、取組を活性化させるため、**県が主導する必要**



県が主導し、地区防災計画や避難支援個別計画作成の機運を全県的に波及させるための「協議会」設置を県内全市町村に呼びかけ、賛同が得られた。

岡山県地区防災計画等作成推進協議会

H31. 4. 23 協議会の設置

地区防災計画や避難支援個別計画作成の機運を全県的に波及させるため、県及び県内27市町村等で協議会を設置

H31. 4. 26 第1回協議会開催

地区防災計画の策定等（内閣府 佐谷参事官による説明）
県モデル地区の決定

[モデル地区]

- ・津山市 城西地区（地区防災計画）
- ・備前市 片上地区（地区防災計画）
- ・和気町 田ヶ原地区（避難支援個別計画）

協議会アドバイザー選任

R元. 12. 25 第2回協議会開催

地区防災計画（香川大学 磯打先生による説明）
避難支援個別計画（人と防災未来センター 松川先生による説明）
モデル事業実施地区の取組状況等

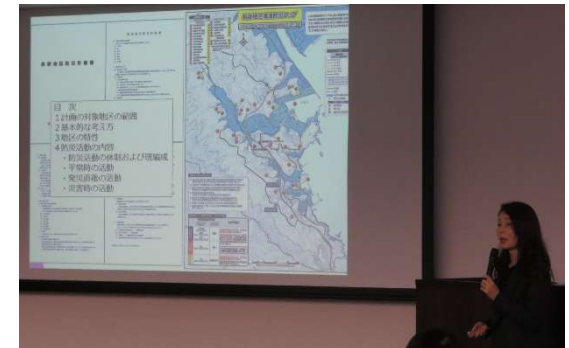
~~R2. 3. 24 第3回協議会開催~~

~~R元モデル事業実施地区の取組成果等報告~~

**新型コロナウイルス感染症拡大
防止のため、開催取りやめ**



内閣府 参事官による説明



地区防災計画の説明



避難支援個別計画の説明

津山市城西地区

＜地区の概要＞

- ・ 地区の人口：4,476人（2,176世帯）
- ・ 策定の主体：城西まちづくり協議会
- ・ 策定する計画：地区防災計画
（令和2年1月末日策定）

＜モデル地区としての取組＞

- ・ 部会開催回数：11回（毎月）
- ・ 検討の経過
 - ・ 防災マップの見直し・活用について
 - ・ 避難所運営マニュアル作成について
 - ・ 城西地区防災訓練実施に向けて など

＜地区防災計画の概要＞

- ・ 基本方針（目的）
- ・ 計画策定対象地区と避難所及び策定主体
- ・ 地区の特性と予想される災害
- ・ 各町内の特徴・強み・弱み
- ・ 避難所運営マニュアル
- ・ 津山市及び城西地区の防災体制 など



避難所運営等について協議している様子



防災訓練時に防災講話を聞く様子

備前市片上地区

<地区の概要>

- ・ 地区の人口：3,406人（1,624世帯）
- ・ 策定の主体：片上地区支え合い実行委員会
（隣接する15町内会による）
- ・ 策定する計画：地区防災計画

<モデル地区としての取組>

- ・ 部会開催回数：5回
- ・ 検討の経過
 - ・ 片上地区の災害の記録から
 - ・ 片上地区災害マップづくり
（被災した個人の記憶を地区の記録へ）
 - ・ 今後、取り組みたいこと など

<今後の予定>

- ・ 災害マップ完成
- ・ 各町内会ごとのハザードマップ作成
- ・ 夜間の避難訓練
- ・ 地区防災計画検討



地区防災計画の講演に参加している様子



災害マップづくりに取り組む様子

和気町田ヶ原地区

<地区の概要>

- ・ 地区の人口：259人（112世帯）
- ・ 策定の主体：田ヶ原自主防災会
- ・ 策定する計画：避難支援個別計画

<モデル地区としての取組>

- ・ 部会開催回数：4回
- ・ 検討の経過
 - ・ 要支援者の個別計画作成の手順検討
 - ・ エコマップ（避難行動要支援者や家族、社会資源等の関係性を図にしたもの）の作成
 - ・ 実働の避難訓練を実施 など

<個別計画の概要>

- ・ 地区内の要支援者20人強のうち6人をモデルとして、個別計画を作成
- ・ 要支援者1人に避難支援者2人を配置し、車椅子やリヤカーを活用し、避難支援



完成した
エコマップ



エコマップ作成のため、ヒアリングを行っている様子



要支援者とその支援者による避難訓練の様子

今年度の成果

- ・ 県及び県内全市町村等で設置した「地区防災計画等作成推進協議会」において、**地区防災計画及び避難支援個別計画の必要性等を広く呼びかける**ことができた
- ・ 複数の市町村が独自で計画策定に向けた取組を開始した。
- ・ 計画作成には、**防災と福祉の連携が不可欠**と考え、防災と福祉の職員双方が会議に参加するよう要請したところ、**双方の職員を参加させる市町村が徐々に増加**した。
 - 第1回：防災14市町村（福祉8市町村）
 - 第2回：防災24市町村（福祉10市町村）

~~・ 地区防災計画等に関心のある**自主防災組織等にも参加を呼びかけ、計画作成の機運を広く醸成**することができた。~~

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催取りやめ

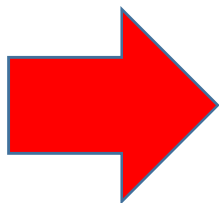
来年度以降の取組

＜防災と福祉の連携を深める研修会等の開催＞

- ・福祉サービス事業者向けの「防災対応力研修」を県内3カ所で開催
- ・県・市町村防災担当者向けの「福祉対応力研修」を実施
- ・各研修受講者による「意見交換会」を開催し、避難行動要支援者の支援のあり方等を検討

＜県モデル事業の継続実施＞

- ・県内3つ程度のモデル地区を選定し、各地区が計画作成に取り組む際、有識者ととも現地まで出向き、計画作成に向けた取組を支援



防災と福祉の連携により、地区の計画作成を支援し、地域防災力の強化を図る

ご清聴
ありがとうございました

